



「みやぎSDGs塾・標準コース」第5ターム後期の受講メンバー

「みやぎSDGs塾・標準コース」の参加者は、3月まで5回の講座を通して学びや体験、交流を深め、修了と同時に「みやぎSDGsアンバサダー」として認定されます。「みやぎSDGsアンバサダー」には、所属する組織内での活動にと

メンバーの思いを知る

第5ターム・後期の初回の講座となった「みやぎSDGs塾・標準コース」には、「みやぎSDGsアンバサダー」を目指す新たなメンバーが集まりました。

明日につながる新たな交流



「みやぎSDGs塾」に参加する目的を発表する参加者ら

どまらず、互いに連携し、SDGs活動を地域に広めていく役割が期待されます。宮城県内ではすでに「みやぎSDGs塾」第1〜4タームに参加した150人が「アンバサダー」として活動しています。今回の講座に参加したのは、県内企業や学校、自治体などから集まった14人。他社の取り組みを知り、SDGsの観点で自社の業務に生かせるものを見つけた「みやぎ生活協同組合・金田志保さん」が人口が減少する中、どうしたら安定的に献血に協力してもらえるか、皆さん

参加者の声

より主体的に行動したい

これまで自社のSDGs活動に対して、受け身の姿勢で参加していました。今後は「SDGs塾」で、他社の取り組みを学びながら、主体的な活動ができるよう社内発信をしていきたいです。



キューアンドエー 柴田知和さん

講座の後半は、4〜5人のグループに分かれて意見交換。業務や生活の中で感じていることや、これから心がけたいと思うことを、SDGsの目標と関連付けて話し合いました。

グループワークで交流

と一緒を考えたい（宮城県赤十字血液センター・庄子いくみさん）、「これまでSDGs塾」で出会った企業が生徒の学びをサポートしてくれている。また新たな皆さんと出会って、生徒の学びの幅を広げたい（仙台高校教諭・渡部真路さん）など、それぞれに「SDGs塾」に対する期待を語りました。

みやぎSDGs塾って？

国連が提唱する「SDGs（持続可能な開発目標）」を軸に企業や個人が連携し、豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGsファーム」の基幹プログラム。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成する「標準コース」と、具体的な事例の発展に向けて議論する「実践コース」の2講座が開講され、2021年から河北新報社が運営しています。

参加はこちらから！



賛同企業

募集中！！



【申し込み・問い合わせ】 河北新報社営業局 TEL / 022-211-1318 MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

実践コース

ディスカッションを通じて社会課題解決の糸口を探る



「みやぎSDGs塾・実践コース」で意見を交わす参加者

「みやぎSDGs塾・実践コース」では、「標準コース」を修了した「みやぎSDGsアンバサダー」や、県内企業のSDGs関連業務の担当者、自治体職員、学校関係者などSDGsに関心を持つ人が集まり、情報交換や社会課題解決に向けたディスカッションを行っています。11月27日の「実践コース」には県庁職員や公立高校教員など7人が参加。日本旅行東北が2026年3月7・8日に開催する子ども向け防災イベントの運営に仙台高校の生徒が参画する事例など、「みやぎSDGs塾」をきっかけに生まれた連携についての報告が相次ぎました。また「実践コース」には「みやぎSDGsアンバサダー」が集まって「標準コース」の企画を検討しては「毎回、SDGs関連の取り組みの事例発表を行い、その内容をもとに議論を深めたい」「みやぎSDGsアンバサダー」のグループが県内企業のSDGs研修を支援するしくみを作れないかなど、今後の「みやぎSDGs塾」の運用方針について活発な意見交換が行われました。

業種の壁を越え交流

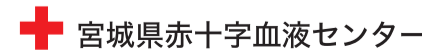
「みやぎSDGs塾・実践コース」では、「標準コース」を修了した「みやぎSDGsアンバサダー」や、県内企業のSDGs関連業務の担当者、自治体職員、学校関係者などSDGsに関心を持つ人が集まり、情報交換や社会課題解決に向けたディスカッションを行っています。11月27日の「実践コース」には県庁職員や公立高校教員など7人が参加。日本旅行東北が2026年3月7・8日に開催する子ども向け防災イベントの運営に仙台高校の生徒が参画する事例など、「みやぎSDGs塾」をきっかけに生まれた連携についての報告が相次ぎました。また「実践コース」には「みやぎSDGsアンバサダー」が集まって「標準コース」の企画を検討しては「毎回、SDGs関連の取り組みの事例発表を行い、その内容をもとに議論を深めたい」「みやぎSDGsアンバサダー」のグループが県内企業のSDGs研修を支援するしくみを作れないかなど、今後の「みやぎSDGs塾」の運用方針について活発な意見交換が行われました。

第5ターム参加者（敬称略）

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩騒】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、成澤勝将【国分東北】佐藤理紗【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼眞洋、花村祐太、野口遥南【タイハク】山田妃那、及川達也【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田中俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚絅学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人

都道府県民共済グループ



特別協力 SDGsとうほく

協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 仙台高等学校 尚絅学院大学SDGsセンター

オフィス塩騒 WACO CREATE

第5ターム始動！



SDGsとうほくの紅邑さん

「世界では9人に1人が飢餓に苦しんでいる」「日本は女性の国会議員が少ないなど」「ジェンダー平等の実現」の達成度が低い」「日本は食糧自給率が38%と低いにもかかわらず、食品の廃棄が多い」「宮城県内の子ども食堂の数は4年ほどで倍増したなど、世界と日本、地域の現状について、SDGsの17の目標に関

今回の「みやぎSDGs塾・標準コース」の講座では、「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務める紅邑晶子さん（SDGsとうほく）が「地域のこころ、世界のこころ」をSDGsの視点で見つめよう」と題して講話。「世界では9人に1人が飢餓に苦しんでいる」「日本は女性の国会議員が少ないなど」「ジェンダー平等の実現」の達成度が低い」「日本は食糧自給率が38%と低いにもかかわらず、食品の廃棄が多い」「宮城県内の子ども食堂の数は4年ほどで倍増したなど、世界と日本、地域の現状について、SDGsの17の目標に関

世界と地域の現状を知る



SDGsに関する知識をクイズ形式で確認

連付けて説明しました。紅邑さんは「自分の仕事や地域など身近なところでSDGsを意識し」「自分ごと」として捉えることが重要」と指摘。さらに、「みやぎSDGs塾」で他業種、他者との交流を深め、新たなパートナーシップやプロジェクトを生み出してほしい」と参加者に語りかけました。